

# 尾張旭の名紅茶で世界へ



尾張旭茶園の看板が立てられた茶園「ネパール」で(いずれも尾張旭市観光協会提供)

## 市内の種ネパールで栽培目指す

紅茶を特産の一つとしてPRする尾張旭市で、市の名前が入った紅茶の銘柄をつくるプロジェクトが動いている。市内にある茶の木の種類を、ネパールの世界的な茶園で育て、ゆくゆくは世界への販売を夢みる壮大な計画。市観光協会の田角明子さんは「おいしい紅茶の店はあるが産地ではなかったため、長年の懸案だった」と語る。

(吉本章紀)

## 「Owari Asahi」銘柄で販売計画も

ネパールにあるジュンチャバリ茶園。二〇一九年に現地を初めて訪れたという紅茶専門店「ティースリンアン」(同市庄中町)のオーナー、堀田信幸さん(六〇)によると、出荷量の約九割の茶葉を手作業でより分けると、高品質な銘茶を製造している。堀田さんも「一部で手作業があるならわかるが、こんな茶園は初めて見た」と舌を巻く。

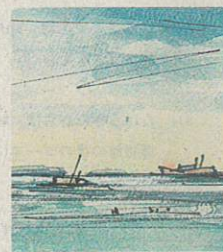
その地に同年、市の特別優先区画「Owari Asahi BARI」ができた。この区画に尾張旭の茶の種を植え、「Owari Asahi」という品種の紅茶を作るといふのが、市観光協会がNEXCO(ネクスコ) 中日本などとこの年から始めた「Owari Asahi BARIプロジェクト」だ。

紅茶で市を盛り上げる歩みは、観光協会の有志で一年にスタート。市内の計十五店舗が日本紅茶協会により「おいしい紅茶の店」と認定され、人口比で日本一になったからだ。堀田さんのPRによると、「尾張旭で紅茶を作っているの」と必ず突っ込まれてきました。と田角さん。このためプロジェクトで堀田さんが「取引のあるネパールに尾張旭の茶畑を作って」と提案。現地の茶園オーナーのローチャンさんが快諾し、優先区画が完成した。同協会はプロジェクトの一環で、昨年十一月に、市内に残る茶の木の情報収集したところ、予想を上回る四十力以上で見つかった。新型コロナウイルスの収束後に、ローチャンさんが来日して茶の種を採取し、ネパールに持ち帰って栽培する予定。クラウドファンディングで、渡航費などをまかなうという。



ジュンチャバリ茶園のオーナーのローチャンさん

### なごや東版



ふるさとの海  
石鍋敏子  
中部一水会

ニュース、情報は下記へ  
社会部  
052-231-1650・5919  
Eメール

shakai@chunichi.co.jp

瀬戸支局 〒489-0809  
瀬戸市共栄通4-8  
0561-82-3121 Fax 82-5316  
日進通信部 〒470-0113  
日進市栄2-214  
0561-74-2002 Fax 74-2003  
春日井支局  
0568-81-2036 Fax 81-2797  
犬山通信局  
0568-61-2612 Fax 61-2613  
小牧通信局  
0568-72-1177 Fax 72-6530

中日新聞へのご意見は  
読者センターへ  
052-221-0800 Fax221-0819  
Eメール  
center@chunichi.co.jp  
掲載写真を購入希望の方は  
最寄りの中日新聞販売店へ

供養のかけこみ寺  
葬儀 供養 樹木葬  
縁切り供養  
**大法寺**  
気軽にお話ししましょう  
**0567-28-7319**  
愛西市稲葉町江頭10番地  
樹木葬 大法寺 検索

ひまわり12 12  
9.30 彩・JAPAN  
10.45 鳥羽水族館  
11.45 ちちらパトロール隊2  
5.00 雲霧仁左衛門  
6.30 ともよしたNOW  
7.00 ともよしたTODAY  
7.30 Weeklyながて  
8.00 ゲゲゲの女房  
10.45 TOYOTAインフォ

そらまめ 12  
7.00 せと◇15あさチャン  
9.35 トコトン #85  
10.00 そらまめスペシャル